



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

専門：美術（近現代美術）

日本の近代美術史に重要な足跡を残した埼玉ゆかりの美術家は少なくありません。戦後から現代にかけても、埼玉を拠点に活動する美術家が国際的に活躍し、注目されてきました。

埼玉県立近代美術館では、こうした埼玉ゆかりの美術家をはじめ、国内外の様々な美術動向に関連する作品を収蔵しています。収蔵作品を中心に調査研究を重ね、展覧会やイベントなどを通じてその成果を発信する学芸員の仕事は、とてもやりがいがあります。また、建築やデザインに関する事業、新進のアーティストを紹介する事業、子供たちの感性を育む教育普及事業なども積極的に実施しています。

展覧会などの事業については、若手も含めた学芸員がアイデアを出し合い、話し合いながら企画しています。さらに、巡回展を実施する際は、全国各地の美術館の学芸員と共同研究も行っています。

みなさんの独創的な発想をもとに、ユニークな事業が実施できる日を楽しみにしています。



1



2

埼玉県立近代美術館の展示風景

1. 企画展「森田恒友展 自然と共に生きて行かう」
2. 収集したグッドデザインの椅子の展示

専門：保存科学

埼玉県立の博物館には、これまでに収集した膨大な実物資料が収蔵されています。その種類は美術、歴史、民俗、考古、自然など多様な分野の資料です。また、寄託資料や借用資料のように外部から大切にお預かりしている資料もあります。

これらの資料は、その土地の歴史や文化、環境といった埼玉県の特徴を知る上で欠くことのできない重要な実物資料です。しかし、適切な保存措置を講じ、適切な保存環境が保たれなければ、様々な原因によって劣化・損壊し、後世へと継承できなくなってしまいます。

私たち学芸員は、これらの資料を保存と公開の狭間で適切に保存・管理していかなければなりません。それには客観的で科学的な情報に基づいた保存管理方法の構築とそれを進化させていく新たな視点が必要です。

温湿度・光・空気環境の管理、I P M、材質調査、修理・修復、防災など、博物館における保存科学専門の学芸員に期待される仕事は多岐に渡ります。

保存科学的な知識とそれを応用して様々な状況下で実践できる人、そしてなにより文化財としての資料を愛せる人が埼玉県には必要です。



受入資料等の初発燻蒸



I P Mの一環で行う資料点検と清掃

専門：自然（植物）

自然分野の学芸員は、自然の博物館での勤務が中心となります。目の前には絶好のフィールド「岩畳」が広がり、まさに埼玉の自然と人を繋ぐ拠点として、様々な展示や講座・観察会、資料の収集・整理・保存、調査・研究などの事業を行っています。限られた人数のためそれぞれが幅広い業務を担っており、専門性を活かせることも多く、また新しい分野について学ぶのも楽しいもので、やりがいがあります。時には議論しながら意欲的に仕事に向き合う、雰囲気の良い職場です。

博物館以外では、天然記念物の保護や博物館行政を担当する課に配属されることもあります。畑違いのようですが、埼玉の自然をまもり伝える仕事、各博物館をサポートする仕事もあり、埼玉県では学芸員の役割の一つです。

大自然が広がるイメージはない埼玉県ですが、意外に多様な環境があり、まだまだ植物について解明すべき課題がたくさんあります。ぜひ新しい視点で資料収集や調査研究を進め、魅力的な展示や活動を展開してほしいと思います。「研究だけでなく自然の魅力を“伝える”仕事がしたい！」という皆さん、専門にとらわれずチャレンジしてみてください。一緒に働けるのを楽しみにしています！



“有用植物”の展示風景



長瀬岩畳での観察会



奥秩父での調査